

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 教授

氏名 高木哲

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

臨床現場において知っておくべき重要かつ基本的な事項に加えて、教科書レベルではなくプラスαの知識として「なぜそうなっているのか、なぜこのように治療するのか」に重点をおいて自ら考える力を育成することに重きを置いている。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医外科学	獣医・獣医	必須	4	130
獣医総合臨床実習	獣医・獣医	必須	5	130
小動物総合臨床Ⅰ	獣医・獣医	必須	5	130
小動物総合臨床Ⅱ	獣医・獣医	必須	5	130
小動物総合臨床Ⅲ	獣医・獣医	必須	5	130
小動物臨床実習	獣医・獣医	必須	5	130
小動物病院実習	獣医・獣医	選択	6	10
動物外科看護学Ⅰ	獣医・動物看護	必須	2	70

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

- ・ 獣医学部を卒業しても自信をもって活動できないことがないように自己肯定感を確立させるため、物事の本質を多方面から捉えることができるようにし、将来揺らぎない自己を育てる。
- ・ 海外の専門医と日本のトップレベルに技術的には差はないが獣医業界全体の平均点としては劣っていると感じており、教育手法が確立されていると感じたことから基礎から応用までがエビデンスをもって実行できる獣医師を育てる。
- ・ 卒業生は必ずしも獣医師としてのみでなく活躍しているので自己完結能力をもって将来どの分野にも対応できる可能性を持った人物を育てる。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

[方針1] 自然科学は正答を選ぶ学問ではない。同様に、臨床例の診断治療においてもそれぞれの「答え」を覚えるのではなく、「解き方」を学ぶ。

[方法] 症例の手術・診療においてなぜそうなっているかを常に説明する。

低学年の授業においては匿名で質問できる環境を整える。

高学年・卒後教育においては自分より下の立場への説明ができるようにする。

[方針2] ひとつの課題からひとつではなくより多くのことを学ぶ。

[方法] 診療の前後に症例検討会を行う。

学生の卒論ミーティングは2週間ごとに必ず全員で行う。

[方針3] 確実な基礎知識を育成する。

[方法] 授業後の小テストを実施する。

スマートフォンでも確認できる基礎手技の映像教材を制作する。

試験内容の正答は本質に関わることを選択できるようにする。

[方針4] 自らの力で解決策を見つける能力を得る。

[方法] 学生の論文ゼミの運営補助はするが当日の進行自体は学生が主導する。

研修獣医師はインフォームシートの作成を共同で行う。

[方針5] 常に最新の知識を得ることが重要であることを理解する。

[方法] 授業教材は毎年手直しする。

実習内容も毎年手直しする。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

授業の中でアンケートシステム（イマキク）を利用してクイズや学生からのコメントを拾っている。配布資料はキーワードを隠して授業中に書き込む形式としている。

(2) ICTの教育活用

有

ストーリーニング映像教材開発、VR教材開発、iPadを用いたプレゼン

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

いずれの授業もオムニバスである。授業ではiPadを利用してスライドの中でも重要項目がわかりやすいように、スライドの拡大を行ったり、説明をスライド内に書き込んでいる。また、配布資料にはキーワードを穴埋めするようにして授業を聞くようにしている。授業後は毎回小テストを実施している。

(2) 学生の理解度の把握

A

授業アンケートの質問内容も答えが一つであるものもあるが、それぞれの意見が反映されるようにしたり、引っかけ質問（試験ではできないので、あくまでレクリエーションの範囲）などを実施することで授業中に楽しいと思えるものを提供するように心がけている。この時点で理解度の把握もある程度可能である。授業ごとに小テストを実施している。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

A

実習においてはストリーミング動画教材を用いていつでもどこでも臨床手技映像が学習できるように工夫している。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

授業後や後日のメールについて速やかに返答することを心がけている。授業中の質問についてはオンラインアンケートシステム上でも対応が可能となっている。

(5) 双方向授業への工夫

A

授業中に匿名のアンケートシステムを用いて双方向性を担保している。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

C

国家試験対策については事情により全く関わるできない。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

基本的に非常に好評であった。他大学においても視覚に訴える授業が好評を得ていることからこれらについて引き続き積極的に利用していく。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

動画教材は実習のある週は1000回以上の再生実績が見られることから実際に複数回利用されていることがわかる。実習では到達度試験も実施したり、学習成果の評価を行い、成果を論文化している。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

さらに研究費を獲得して映像コンテンツを増やし、学会発表、論文発表を行う。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

非生体教材を積極的に利用して繰り返し学生が勉強できるように機会を与えている。また、バーチャルリアリティ教材を作成して個々人が実習で手を動かすことができるようにしている。

(2) (1)の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

学習成果については学术论文あるいは学会発表として公表済みである。獣医学会シンポジウムや市民公開講座など広く評価されている。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

臨床活動もあるため参加が難しい状況も多いが、できる限りタイミングを合わせて参加し、それ以外のタイミングでもオンデマンド視聴などで参加している。しかし、回数が多すぎるので機会は減らしてももう少し本当に必要なことに集中した方が身になるのではないかと考えている。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

短期的には対面授業での双方向性を確立することが目標で、これはほぼ達成できたのでこの状況を維持していく。

長期的には学生が自主的に課題を見つけ、自力で解決法を考える力をつけることができるようにする。このことは実際の国家試験合格率に反映されていくものと思われる。そして、教育に関わる研究をテーマにさらに科研費などの獲得を目指す。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

学術論文、学会発表、教育シンポジウム抄録、市民公開講座、HP、各種映像教材